インタビューコーナー

皆様、初めまして、平成29年2月1日から育成医学（小児科）講座教授に就任しました中西浩一です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

琉球大学大学院医学研究科育成医学講座 教授
中西　浩一　先生

質問 1. 琉球大学大学院医学研究科育成医学講座教授に就任されてからこれまでを振り返ってみてどのような感想をお持ちでしょうか。

赴任して半年が経とうとしています。新天地にやってきて様々なことをみつめ、考え直してみて、二つのことを改めて実感しました。一つは、「小児科医の良さ」、もう一つは「大学の良さ」です。小児科医という仕事の素晴らしさを感じる理由はたくさんありますが、一つだけこの場で述べるとすると、「小児科医は子ども達の総合医」であるということです。理想的な小児科医は心を含め全身を診る総合医的臨床力を有する医師です。琉大の小児科医局員は全員がそれを心がけて日々の診療に従事しています。私の専門領域は小児腎臓病ですが、琉大小児科では腎疾患のみならず、全ての小児科分野に配慮し、患者さんとその家族のことを一番に考えて、丁寧な診療をしていきます。大学という職場を素晴らしいと考える理由もたくさんありますが、こちらも一つだけこの場で述べるとすると、「素晴らしい人が大勢いる」ということです。「多くの分野のプロフェッショナルが一堂に会する」そんな場所が大学です。臨床の分野は言うに及ばず、基礎の分野にも素晴らしい先生方が大勢おられます。これこそが、大学の魅力です。臨床、基礎を問わず、多くの先生方とお仕事をさせていただきたいと思います。

質問 2. 中西教授が目指す講座運営の方針等についてお聞かせ下さい。

沖縄にやってきて、「ユイマール」という言葉を知りました。ゆい（結い、協働）＋まーる（順番）の意で、順番に労力交換を行なうこと、相互補助と訳され、元々は畑仕事についていう言葉だったそうですが、転じて他の仕事についても言うようになったとのことです。まさしく、「ゆいまーる」の精神こそが私達のモットーです。地方の大学小児科が大変なことは想像に難くないのですが、当教室も例外ではありません。どのような状況であっても、人を大切にして一人でも多くの人が集い、みんなで力を合わせていきたいと思います。「忙しくても明るく楽しく」、「ゆっくりだけど確実に」、そのような医局を目指していきます。診療に

おきましては、私自身は腎炎、ネフローゼ症候群を中心とした小児腎疾患を専門としています。琉球大学小児科におきましては、腎疾患管理を強化するとともに、全ての小児科疾患分野に配慮し、患者さんとその家族のことを一番に考えて、丁寧な診療をしていきます。大学の使命として研究は最重要と心得ています。ただし、臨床講座において研究は単独に成り立つものではなく、教育・診療・研究が三位一体であるということを肝に銘じ、全ての基本は「人」にあり教育に力を入れることが原点だと考えています。常にリサーチマインドを持って診療にあたり、そこから生じた問題や疑問を解決する研究を実践できる人を育てていきたいです。

質問 3. 琉球大学医学部附属病院は県内唯一の大学附属病院として県民から寄せられる期待が大きいと思います。県立病院を含めた他病院、診療所との連携、離島医療に関してご意見をお聞かせ下さい。

皆様ご存知の通り 2004 年 4 月から開始されました新臨床研修制度では、初期研修医が多くの科をローテーションすることと、大学の医局に属しない医師が増加する傾向があることが特徴です。それにより、全国的に大学医局に所属する医師が減少し、かろうじて保たれてきた地域医療のバランスが崩れました。沖縄県では、歴史的に県立病院が中心的な役割を果たされて医療が進められてきた事情がありますので、全国とは若干事情が違うかもしれませんが、沖縄県唯一の医育機関としまして僻地・離島の問題には大学も一定の役割を果たす責任があると考えており、その場限りの対応ではなく、計画的でありながら柔軟性のある仕組み作りを県関係の皆様と模索できればと思います。そのような背景を受け、琉球大学でも地域枠を設け対応されています。何より魅力的な医局を作り多くの医師が集うことにより、地域に医師の派遣が可能になりますので、その実現に向け尽力していきたいと思います。小児科では全国的に平成 29 年度から新専門医制度が稼働します。琉大のプログラムでは定員の全てを満たす 6 名が新しい仲間になってくれました。その期待に応えられるように、関連施設の先生方と医局員が一丸となって取り組んでいます。

質問 4. 県医師会に対するご要望等がございましたらお聞かせ下さい。

県医師会の皆様には平素より大変お世話になっており、感謝申し上げます。沖縄県の医療を支えておられる皆様と日頃から緊密な連携を保ちながら、沖縄県の小児医療のさらなる発展のため医局員と力を合わせ精一杯頑張っていきますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

質問 5. 大変ご多忙の身でありますが、日頃の健康法、ご趣味、座右の銘等がございましたらお聞かせください。

これまでもそうでしたが、慢性の運動不足が悩みの種です。それで、できるだけ階段を利用するようにしていたのですが、階段の上り下りは膝の負担が大きいと聞き、どうしたものか考えています。琉球大学赴任後は、徒歩で通勤するようになりましたが、片道 5 分ですのであまり効果はなさそうです。趣味は音楽で、ドラムを少し演奏します。聞くのも好きで、とてもよいストレス解消になります。

ジャンルは何でも聞きますが、とりわけジャズフュージョンが好みです。将来的には運動不足解消を兼ねてサイレント（電子）ドラムを購入したいと思いますが、サイレントと言っても結構音がしますので、今のところ場所の問題で直ぐには実現困難です。座右の銘は「随処作主（ずいしょにしゅとなる）」です。少し難しい言葉ですが、自分が所属する組織のために何が本当に必要なのか、何が本当に大事なのかをよく考えて、問題解決のために一生懸命努力することが重要だと理解しています。

この度はお忙しい中、ご回答頂きまして、誠に有難うございました。

インタビューアー：広報委員　清水 雄介

原 稿 募 集

プライマリ・ケアコーナー（2,500字程度）

当コーナーでは病診連携、診診連携等に資するため、発熱、下痢、嘔吐の症状等、ミニレクチャー的な内容で他科の先生方にも分かり易い原稿をご執筆いただいております。

奮ってご投稿下さい。

随筆コーナー（2,500字程度）

随時、募集いたします。日常診療のエピソード、青春の思い出、一枚の写真、趣味などのほか、紀行文、特技、書評など、お気軽に御寄稿下さい。

なお、スポーツ同好会や趣味の会（集い）などの自己紹介や、活動状況報告など、歓迎いたします。

原稿送付先

〒901-1105　南風原町字新川218-9　沖縄県医師会広報委員会宛

E-mail：kaihou@ml.okinawa.med.or.jp

※原稿データは、出来ましたらメール送信又は電子媒体での送付をお願い申し上げます。